

今回は、第2回「さくら塾」の報告です。

◇ 朝日大学の堀部めぐみ先生から、看護に関するお話をうかがいました！

日時： 2020年9月18日(金) 15:50~17:00

場所： 関高等学校教室

講師： 堀部めぐみ先生 朝日大学助教 母性看護学

演題： 「看護の仕事と大学での学び」

参加者： 看護学部学科を志望する生徒 32名

内容： コロナ禍における病院や看護師の仕事の現状、看護師の職務内容、大学の看護学の学び、将来のために今やっておくべきことなどについて、詳しくうかがいました。質疑応答にも時間を割いていただきました。

◇ 生徒の感想

■センター入試から共通テストに変わって基礎だけでなくそれを自分でどう応用するかが、今私たちに求められていることで、セミナーを聞いて改めて、こういう事なんだと実感しました。それは看護師は第一に患者を尊重する事が大切だからです。基本を学び終えるのは当たり前のことで、そこからどう応用して患者やその家族に一番良い方法を提案できるかが看護師に求められていると感じ、人の気持ちを汲みとる事がAIには出来ないからこそ、看護師という仕事の重要さに気付きました。

今の勉強している生物や英語などが職業にとってもいきてくると聞いて、勉強に対してすごくやる気が出ました。どんなことも今頑張れば将来ちゃんと身になるし、まだ社会現象に疎いので新聞やニュースをちゃんと見ようと思いました。80分あっという間で価値のある時間になりました。

私は薬学が本命ですが、最近看護学もいいなと迷っています。でも今日の話や先輩の質問を聞いて看護もすごく良かったのでもっと調べてみたいです。

■今日のお話は、自分の中で、看護師という仕事について改めて考え直す良い機会となりました。お話の中で印象に残っていることは、看護師は仕事をする上で、医学的知識に加え、心理的配慮も頭に置いて判断をしなければならないということです。患者さんは全員歳も症状も性格も違うからそれぞれ最善の治療、接し方は違うと思います。だからマニュアルなんてなく、自分の頭で考えなければいけない仕事だと思いました。大学では、知識や技術を身につけるだけでなく、自分の頭で考え、どんなことが起きても焦らず冷静でいられるような力もつけていきたいと思いました。

■看護師は、ただ決められた通りのケアをするだけでなく、臨機応変に相手を想って接していくことが必要だと改めて感じました。看護には正解がないかもしれないけど、患者さんや、



その家族の方が一番納得できる方法を見つけるのが大変なところであり、魅力であると思いました。現在はコロナの状況下で差別などがあるので、私達も正しい知識を持ち、雰囲気でも差別をしてはいけないと思いました。また、広がらないように自分自身が予防することをこれからも強く意識していきたいです。社会とも合わせた看護をできるように、今からニュースを見たり、学校の勉強を確実にこなしていきたいです。

■看護系の大学では母性看護学を始めとして人の成長過程に沿って講義があるということを知りました。看護師に必要な事として生物学・英語など高校で学ぶことの応用となる知識や看護の技術があること。加えて身につけた知識に基づき思考する力やその思考を基に臨機応変に行動する力が求められること。これらのことを学び、私は臨機応変な対応をすることがとても大切で難しいものだと思いました。

■私は将来看護の知識が豊富な養護教諭になりたいと思っています。そのために教育学部ではなく看護系の大学に進み知識を身につけその上で資格獲得に向けて努力していきたいと考えています。養護教諭も看護系の仕事です。看護師同様、臨機応変な対応が重要になると考えました。このコロナ禍の中で子供たちの精神的なストレスはとても大きく、深刻なものだと思います。そこで養護教諭という存在は子供たちの心の支えになれるのではないかと思います。どうしたら子供たちの為になるのか、どのように救っていくのか、これらを考えるためにはやはり知識や技術はもちろん臨機応変に思考する力が重要となると思います。今回のコロナ感染のことで考えたように相手の気持ちを想像して行動することを大切にしていきたいと思いました。また、今回の講義で「まちの保健室」と呼ばれる看護系の仕事があることを知り、興味を持ちました。誰かに寄り添い相手のことを想像し考え、自分の知識や技術の引き出しから臨機応変に積極的に行動していく力を身につけたいと思いました。

■コロナについてやはり医療現場で働く方たちの差別はあるのだなと思いました。あまりニュースを見ないので詳しく知りませんが、そういった差別はとても胸が痛く良くないことだと思いました。自分たちにできることをこの講義の中で考えることができほんとに良かったと思います。

私はおばあちゃんと毎日会います。大好きなおばあちゃんや地域のお年寄りの方にとってコロナウイルスは私たち以上に怖いものであり危険です。お年寄りの方と関わってる以上より一層感染予防に努めないといけないと思っています。不要不急の外出はしないこと、マスク着用、消毒など自分たちにできることはたくさんあります。今までと違う生活をするこへのストレスや我慢による辛さはみんな同じでみんなあると思います。そんな中で医療関係者の方にそのストレスをぶつけるようにして、また感染への恐怖心からなど色々あると思いますが、偏見をし、差別をすることは絶対あってはいけないと思います。自分たちより怖い思い、苦しい辛い思いをしてるはずの方たちに差別をすることはよくないことです。敬意を払い感謝をしてお礼を言わなければいけないはず。みんなも怖いかもしれないけれどだからといって差別は良くないです。世界的なことなので私に出来ることはほとんど思いつきませんが、せめて自分は絶対にしないこと。そして周りで見ている人がいたら責めるのではなく話を聞いて納得してもらった上で差別しないようにしてもらいたいと思います。また、あまりにニュースを見ていなさすぎると感じたのでもっと見たいと思います。

■最初に、「医師から大福を禁じられている患者さんに対し、大福を食べさせてあげるのか、あげないのか」という質問をされ、私は食べさせてあげたいなと思いました。食べてはいけない理由が喉に詰まるからという事だったので、だったら小さくして食べさせてあげて、意志を尊重してあげたいなと感じたからです。そのことが正しいかどうかは分かりません。でも私の中で、病気を抱えて辛い思いをしている中で少しでも安らぎ的なものがあると患者さんもちよっとは楽しく生きられるかな、などいろいろ考えました。

看護において大切なことは臨機応変に行動することだと伺いました。ダメだから何もして

あげられない、ではなく、ダメだけどなにかしてあげられることはないか、と考えることが大切なんだと感じました。また、医学的知識にプラスして、精神的配慮も必要になってくると知って改めて、これをこなしている看護師さんたちはすごいと感じました。そして、憧れも強くなりました。正直、看護師になりたいとは思っていてもどの科にいきたいかなどは全く決まってないです。だから、大学に行った時、たくさんの実習をして、自分がやりたいと思った、やりがいのある科を見つけられたらなと思います。

今回、短い時間ではあったけど、興味深い、今後に繋がるお話が聞いてよかったです。

■最近看護師になりたいと進路を変更したばかりで、看護についての知識が浅かったので今回の講話が良い経験になりました。

看護を目指すにおいて大事な心構えや、今から自分ができることを知れたので今のうちから実践したいと思いました。私は普段、新聞やニュースを進んで見る方ではないけれど、少し周りの環境の変化に目を向けることで3年生になった時の入試に役立つかもしれないと知れたので、毎日コツコツと対策していきたいです。

今はコロナというこんな状況で、簡単に大学見学に行けないけれど、このような講話やオンラインオープンキャンパスなどのお知らせを自分で気にして、自分のプラスの力になるようにしたいです。

■看護の大切なことや、大学に入ってからどんな勉強をするのかが具体的にわかってとても良い勉強になった。私は助産師になりたいと思っているので、助産師の先生から助産師についてや、ほかの看護のことなど様々な話が聞けたことは良い経験になった。高校でしている勉強も大学での勉強につながることや、今の社会について知っておくことが大切だと分かったので、ニュースや新聞などでしっかり勉強しておきたいと思った。今日の講座を聞いて改めて頑張るって夢を叶えたいと思ったし、患者さんのことをしっかり考えて思いやりがあり、臨機応変に対応できるようにになりたいと思った。

■講座を聞いて、改めて看護について学びたいと思いました。特に看護は一人一人状況が違うためIAに仕事を奪われにくいという話から、私も人間にしか出来ない数少ない、大切な仕事だと感じたからです。私は将来、健康状態に問題を抱えている方とその家族に寄り添い、よく話を聞いてその人にあった判断の出来る創造性の高い保健師になりたいです。そのため大学で基本的な知識を身につけ、それを活かして臨機応変に行動できる力を身につけたいと思いました。

初めは助産師の先生だと聞いて質問しようか迷ったけれど、保健師の仕事についても答えて下さり、助産師の視点からも実体験を交えながら質問に答えてくださったので、疑問に思っていたことが解決出来ました。また、コロナの中でもこうして講座をして下さり、看護体験が出来ない私たちにとって貴重な体験になりました。

■今日の講話で、特に印象に残ったことは看護の仕事はAIに勝てるということです。「大福が食べたい」という話であった通り、一方通行の治療ではなく、どうすれば患者の意思をできる限り尊重できるか、どこまで寄り添えるかを考えることが看護をする上で重要だということがわかりました。人の気持ちが分かるのはAIではなくやっぱり人だと思うので、普段からコミュニケーション大事にしたいです。

今やっている学習が看護学を学ぶ上で基盤になることが知れて、大学に行っても看護師になってもずっと学び続ける仕事だと思うので積み重ねを大切に勉強していきたいです。また、コロナウイルスに関しても看護師を含め医療従事者の方々に感謝して自分ができる感染症対策（ちょっとずつの我慢、マスク、三密避けること）をおこないたいです。

今日教えていただいた指からやる手指消毒も明日からやりたいと思います。

■今日のお話を聞いて、看護師になるためにはたくさんの努力が必要なんだなと改めて感じ

ました。専門的な学習に加え、高度な技術や人と関わるうえでのコミュニケーションの取り方など学ぶことが沢山あるので、大学に入るまでに出来ることを今のうちにやっておこうと思いました。特に私は英語が苦手なので大学に入るまでにはせめて苦手意識を無くせるくらいには頑張ろうと思いました。また私は普段あまり新聞を呼んだりニュースを見たりしないので、これからは新聞やニュースを見て今の社会の状況などについてしっかり把握しておきたいなと思ったし、これからは社会の変化についていけるように努力していきたいです。

実際に大学の先生からのお話を聞く機会はなかなかないのでいい経験になったし、専門的なお話を沢山聞いて良かったです。

■講師の方の話を聞いて看護というものについて改めて考えることが出来ました。看護という仕事は知識だけではなく患者さんの為に考えて臨機応変に対応する事が大切なのだと思いました。私は助産師になりたいと思っていたので助産師という仕事についてもより知ることが出来たしなりたいという思いがより強くなりました。

■昨日の看護師についての説明会で、看護師とは人々が日常生活を送るために欠かせない仕事かつ、社会生活を支える仕事だということを改めて感じました。看護師には必要な知識と技術を習得し、身につけた知識を思考する力、その思考を基に臨機応変に行動する力が求められることを知りました。

私は専門学校へ行くか大学へ行くか、すごく迷った時期がありました。しかし、様々な人に大学へ行くと倫理的に考える力を身につけられるということを知り、今回の話でも同じようなことが聞けて、大学へ行きたい！！とより一層感じる事が出来ました。これからは新聞やニュースなどから今、世界で起きていることに目を向け、臨機応変に対応する力を身につけたいです。また、今学校で勉強していることは大学へ入った時にも役立つことを知り、受験勉強をこれまで以上に一生懸命頑張ろうと思いました。

■ふれあい看護体験がなく、面接で話す内容が少なかったため、このような機会はとても自分のためになった。一番心に残ったのは、看護師はEssential Workerの一つだということだ。看護職はAIで埋めることはできず、日常生活において必要不可欠で社会を支えている仕事なのだと言うことを改めて考えさせられた。このコロナの時代に医療従事者についての称賛と差別について、私は、自分たちがコロナにかからないように予防をすることが医療従事者に対しての称賛だと考える。また医療従事者の周りの方が差別に合うことは、正しい知識を持たないで、インターネットや情勢に左右され間違ったことをしているということなので、自分で正しい知識を手に入れ、行動するべきだと思う。

また、学校の教科書の家庭科と保健が看護の学習に身つなげると聞けたので、受験が終わって大学に行くまでの春休みの間に読み返し、学習の基礎をしっかりと作れるようにしたいと思った。

■コロナで看護体験などができない中、看護師について、大学についてのお話を聞いたこととても貴重な時間でした。今看護師に求められる能力は様々で、それは社会の変化とともに変わる。だからこそ、幅広い知識や技術を身につけて考え臨機応変に行動する力がとても大切なんだと感じました。また、その力は今から身につけられるものもあるので、看護師になるという目標に向けて自分の生活の仕方、考え方など見直してみようと思います。看護師はたくさんの人と関わる仕事で、いかに一人一人の患者さんの意志を尊重した看護をするかという点で、とても大変で厳しい仕事だと思いましたが、それと同時にとてもやり甲斐のある素敵な仕事だとも思いました。お話を聞いて、看護師になるために頑張ろうという思いが強くなりました。私は患者さんに寄り添い安心してもらえる看護師になりたいです。これからの生活、大学での学びを通して理想の看護師になれるように努力したいと思います。

■朝日大学の方から看護の役割と大学での学びについて話を聞いた。看護に関して、今まで

たくさんのお話を聞いた事もあり、改めて納得することや感じるが多かった。

ニュースを見て、世界で起こっている様々なことに目を向け、知識に基づいて思考する力や、臨機応変に行動する力を、看護師になるために大学や専門学校で学ばなければならないと学んだ。症状のある患者さんを空想し、患者さんにどのような対応をしてあげたらいいのか考える場面では、患者さんの気持ちを尊重した上で、看護師として何ができるかを考えたり、参加していた他の子達の意見も聞けてより深まった気がして良かった。また、今流行っている新型コロナウイルス予防のための、手指消毒の正しいやり方を学んだ。私が常にやっていた方法は完全に予防していたのではないと気付かされ、先生から教えて頂いた正しい方法で、これからも常に予防していこうと思う。

私の第一志望である看護の専門学校に向けて、今勉強をしたり、面接の練習をしたりして、今回最後に質問した尊厳死について教えて頂いたことを参考に、自分の考えを明確化したいと思った。また、さらに、看護師という職について知識が深まったので、これからも夢に向けて勉強に励みたいと思った。

■私は去年一昨年と看護体験に参加することができていなかったので今回のセミナーを聞くことができてよかったと思っています。

話の中で日本看護協会から出されている今の看護師に必要な力は知識根拠に基づいて考えて臨機応変に対応する力だと学びました。さらに時代の価値観に合わせて変化し多様化していると知り、看護師になれた時には常に新しいことを学び意識しながら患者へ最適な看護が提供できるようにしたいと思います。

80歳後半の男性が大福を食べたいと言った時の対応について例が出された時もわたしは小さく切ることしか思いつかなくて、飲み込まないようにしてもらうことや詰まりにくいもので代用することは思いつきませんでした。「出来るだけ患者の意思を尊重するためにも看護師の持つ引き出しは多い方がいい」ということを聞き今の自分には全然その力が足りていないので常に普通に生活している中でいろいろなことを考えながら生活しようと思いました。

高校3年間の勉強が基礎となるので保健体育、家庭科の教科書や生物を少しでも勉強しておこうと思います。

■小4の時にナイチンゲールの本を読んで看護師に憧れて将来の夢になったのでナイチンゲールの話は知ってたけど統計学的なこともしていたということにびっくりしてグラフとかがない時代に視覚的にわかりやすいような工夫をしながら900ページにまとめたということに感動して、やっぱりかっこいいな、と思いました。

助産師としての話もいくつか伺えて、一番印象に残っている言葉は、助産師は病院の中で唯一心からおめでとうと言えるところで働けるということです。

新しい命に出会える場であることは重々知っていたけど改めて考えてみると、確かにそうだなあと思ったし、深い仕事だな、と思って少し興味が湧きました。

大学での勉強が今わたしがやっている生物であったり化学であったりすごく繋がっていることがよくわかって勉強に対するモチベーションがあがり、受験に使うとか使わないとか関係なくがんばろうと思いました。将来に対する不安も大きいけど今回の話を聞いて少し楽しみになり、自分にとってとても良い機会になりました。

■看護の勉強の中でも色々な分野があって幅広い年代でそれぞれ違う看護学を学ぶことは初めて知って、あまり看護学部で学ぶことをこんなに詳しく知らなかったので知れてよかったなと思いました。消毒の仕方も正しいやり方を自分自身知らなかったし、多分みんなも知らなかったと思うのでちゃんと予防してるつもりなだけだったんだなと思いました。みんながもっと正しい知識を持ってないと予防しているつもりなだけになってしまうので、今日の30人だけじゃなくて全員に感染が広がらないよう知識を持って欲しいなと思いました。

助産師さんだと障がいを持つ赤ちゃんを産むお母さんにもたくさん出会ってきたと思います。私がお母さん側だったら正直少しとまどってしまうなと思っていてそういうお母さんも

いると思うんですが、悩んでいる時に助産師さんが他の子と同じように赤ちゃんを可愛がってくれたり話を聞いてくれたりすることで受け入れることができるのかなと思いました。看護師の言葉や態度で本当に救われることがあると思うのでとてもすごい仕事だなと思いました。

病気になってしまった人も病気を受け入れられずに心を閉ざしてしまったり、自分を傷つけてしまったりすることがあると聞いたことがあるので身体だけじゃなくて精神的な心のケアや配慮もしていける看護師になりたいなと思いました。

■私は看護師に興味があってこのさくら塾に申込みました。オープンキャンパスにも行きましたが、内容が少し分かりにくくて、あまりイメージできませんでした。今回のお話は、大切どころだけを分かりやすく教えていただけて想像できました。

私は中学生の時は自分の意見をたくさん言う方でしたが、高校生になってからあまり自分の意見をみんなの前で言わずにみんなの意見に合わせていました。今回の講話は、先生が生徒にたくさん話しかけてくださっていたり、生徒の意見をたくさん聞こうとする姿がありました。自分の意見を伝えることは大切だと改めて気づけたので、思っていることはちゃんと伝えて自分の意見をしっかり持って行動していきたいです。

前までは、看護師を目指すかとてもあやふやで迷っていたけれど、今回のお話を聞いて少し心が固まった気がします！たくさん本当にありがとうございました。

■私は朝日大学の先生の話聞いて、初めて聞くことがたくさんあってとても勉強になりました。看護学部の中でも母性看護や成人看護などさまざまな分野を学ぶことや、Essential Workerという日常生活を送るのに欠かせない仕事を担っている人々の中に看護師が入っていることから、とてもやりがいのある仕事であり人々から必要とされている職業であることを改めて感じました。

私は今回の話から、看護師は人の命を預かる仕事なので責任感と患者さんに対する思いやりを大切にすべきだなと思いました。大福の話から、医学的にはだめだとしても患者さんの気持ちに寄り添ってなにか出来ないか試行錯誤する看護師の方はとても素晴らしいと思いました。しかし、医学的な知識や心理的な知識がなければならなくて、単に思いやりがあるだけでは患者さんを助けられないことがわかりました。大学で学ぶときに高校での学びがベースとなるとおっしゃっていたので、受験までの残りの高校生活では大学をゴールと考えるのではなく、大学に進学したあとのことを見据えて勉強にさらに力を入れていきたいと思いました。

■私は朝日大学の先生の話聞いて、もう一度これからについて考えることが出来たし、勉強を頑張りたいなと思いました。わたしは中学生のときから助産師になりたいと思っていたので、助産師の方に話を聞いてとても良かったです。看護師は「Essential worker」と言われる日常生活をおくるなかで必要な仕事を担っている人で沢山の人の助けができる素敵な仕事だなと改めて思いました。看護師は医者とは違って医学的配慮にかぎらず心理的配慮で患者さんに寄り添わなければならないという事を学んだので日頃から周りの人のことを考えて生活したいです。また看護は持っている引き出しが多いほど役に立つということも知ったので日頃からニュースを見る習慣をつけて社会のことを知り、沢山の知識を持てるようにしたいです。今回の話を聞いて、私は改めて看護の道に進みたいと思いました。高校での勉強は大学の勉強にも繋がるので受験までの高校生活できちんとした土台を作れるようにもっと勉強を頑張りたいと思いました。

■「看護師はコロナにもAIにも負けない」という言葉が一番心に残りました。

講演を聞いて、看護師という職業に必要なのは技術や知識だけではなく、患者さんのためにその技術や知識を応用して個人個人にあった治療をしていく。このことはAIには決して無理であり、看護師にしかできない、看護師の誇りであると感じました。また、看護師は将来

どれだけ社会が変化しても必要な存在であることが分かりました。

新型コロナウイルスの感染によって、今医療関係の方々達はとても大変な思いをしています。そんななかで、「Essential Worker」として日々私たちの日常を支えてくださることにとても感謝しています。とても憧れています。そして、事例であったような大福の話の、「医学的考えだけではなく、患者さんのためになにができるか考える心理的考えを持つのが看護師の仕事である」ということから、同じ医療関係の仕事でも、看護師という仕事が私がやりたいことにとてもあっていることが分かりました。私は小さいころから人のために何かすること、人と関わることが好きで、なんとなく看護師という職業に興味を持っていました。最近では本当に自分は看護師になりたいのかということに悩んでいて、この講演に参加させてもらったのですが、お話を聞いて、自分はやはり看護師になりたいんだとはっきりと分かりました。

今回のお話で、看護師がいかに必要であるかも分かり、とても充実した時間になりました。大学では看護学に進みたいと思っています。これからは教えていただいたように、新聞やニュースなどから今起こっていることに目を向け、自分の考えをしっかりと持ちたいと思います。

■私は看護師は知識や技術だけがあれば大丈夫だと思っていました。しかし、思考力や判断力も求められており、心理的な面にも目が行き届くように自分の引き出しを増やすための知識であるのだと知りました。今のコロナの中で差別を受けている事は知っていましたが、こんなに命がかかっていて責任が重い職業なのに認められない社会は変わるべきだと話を聞いてより思いました。看護師になる為にまず高校での授業を大切に多くの知識を身につけたいです。また、それだけでなく思考力をつけるためにニュースに目を通して経済や政治は難しそうと思って避けてきたのでこれを機会に見ようと思います。そして周りに流されず自分の意見を言えるように高校生活で気をつけていきます。

■看護師の仕事は人間の一生に関わっていくものだと分かった。医師の診断だけでなく、本人の意思や家族の意思を考えながら、患者さんにとって最適な治療や生活を探していく助けができることが分かった。このことができるようになるように普段からニュースを見て社会で起きていることを学んだり、今までの知識をきちんと定着させて臨機応変に対応できるようになったりすることが大切だと思った。

■今回は看護体験がコロナでなくなっていたため、学校に来ていただいてお話を聞くのはとても良い機会となりました。

まず、看護には母性看護学、小児看護学在宅看護学、地域看護学などの分野に分けられ、看護師というのは日常生活に欠かせない、社会生活を支える、Essential Workerという仕事であると知りました。看護を学ぶ上で知っておかなければならないナイチンゲールについても学びました。ナイチンゲールはクリミア戦争で病院の衛星状態改善を行って死亡率を42%から2%までにした人です。また、統計学者としてデータを分析して900ページの報告書をつくり、学校も設立したことを知りました。

看護師として求められる能力は

- ①知識、技術の習得
- ②身につけた知識に基づき思考する力
- ③その思考を基に臨機応変に行動する力

の3つであると学びました。医学的知識や心理的配慮が必要であり、看護はAIにも負けないことを知り、さらに看護師になりたいという思いが強くなりました。

求められる能力は社会とともに変化していくので臨機応変に対応できるように学校の勉強を真剣にやり、ニュースや新聞を読んで社会について知っていきたいと思います。